http://www.minamih.net/

０９・５・９（土）
南ＮＥＷＳ ＮＯ ５

嬉しいお手紙をもらいました。この４月に中学２年生になる南ＯＢのお母さんからの手紙です。
内容は、“今年の南の卒業生もみんなそれぞれにサッカーを通じて立派に成長を遂げて卒業したのでしょうね。……”と、心からのお祝いと応援の気持ちを届けてくださるお手紙でした。

私（矢上）からのお礼の手紙です。
お手紙、有り難うございました。
すぐにお返事をと思いながら遅くなってしまいました。申し訳ありません。
心と心が通じにくくなっている昨今、お母さんのお手紙にはいつも勇気づけられ、私たちの心に温かいものがポッと灯される気持ちがします。
また、みんなで道志の川で遊びたいです。伊藤さんに言ってＯＢ会をしたいですね。

お手紙にありましたように、南の卒業生達、それぞれが成長を遂げてくれての送る会を催すことができました。コーチ一同も喜んでおります。
中学校生活も２年目ですね。一日一日を大切にして、充実させて下さい。努力は裏切りません。

目・口・手

顔は脳の神経の５０％ とつながっていて、顔を使えば使うほど、脳がよく働くようになると言われています。特に顎を動かすことは、脳への血液の量を増やし、働きを良くするそうです。
さて、脳の残りの神経の２５％は手、もう２５％は足と胴につながっているそうです。手を第二の脳というお医者さんもいるそうです。考えながら手を使うと脳がよく働くそうです。
私の経験ですが、試合中、声をよく出すとより集中できて、脳の働きもよくなるのか、体の動きも瞬間の判断もよくなり、いいプレーが出るようになります。子どもたちを観ていても、それを実感するときがよくありました。普段寡黙な子が、試合中「落とせ！」と大きな声を出した後に、的確なスルーパスを出し、自分もスペースに上がるという場面を昨年の６年生の試合で観ることができました。
声を出す、コーチングができるということは、周りを遠く広く観て、状況を的確に把握し、何をなすべきか選択し、アイデアを持つことにより、味方に伝えることができるということです。脳も活発に動いています。
サッカーでは“目（アイコンタクト）”・“口（言葉）”・“ボディランゲージ（手で伝える）”と、主に３つの手段でコミュニケーションをとります。試合中に目や口や手で互いのアイデアを伝え合うことは試合を有利に進めるだけではなく、脳の働きも活発にしてくれるのです。そして、勝利の喜びもより現実のものになるのです。

少女のカップ戦準優勝、小金井杯中央大会での惜敗、５・６年生の全日本１２Ｂ予選の２次リーグ進出、善戦、５年生～２年生の春季カップ戦の健闘等、ＧＡＭＢＡりを観せてくれましたが、コーチングが課題であることが挙げられています。
秋までの重要課題として捉え、チームのめあての一つとして取り組んでいきます。一人ひとりのスキルアップと合わせてＧＡＭＢＡっていきます。

子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分を好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張りやになる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
優しく、思いやりを持って育てれば、子どもは、優しい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

子どもが育つ魔法の言葉（ドロシー・ロー・ノルト著）より